

<p>① 国語と教育</p>	<p>■子どもたちをすぐれた日本語の担い手に ●実践レポート ○物語文「モチモチの木」（小学校3年）実践報告（山形） ○日本語の指導（文法指導）の実践報告（特別支援）（福島） ○かな文字指導の実践（小学校1年）（岩手） ※ 当日提出される報告についても討議します。</p>	<p>⑫ 生活指導と教育</p> <p>■「子どもたちが自分と他者との基本的信頼関係を取り戻し、共に社会を形成していく力」をつける一年間の見通しをしよう！ ●実践レポート ◆8月10日 「学級づくりの基礎講座」 小学校 大谷敏彰（福島県生研代表） 全国で初めて、ADHDの子を中心とした学級づくりの実践を報告した（明治図書）大谷が、34年間積み上げてきたその裏技も含めて、ノウハウを公開します。 ○8月11日 「2学期に生かせる学年づくり」 中学校 鈴木 直（福島） 中学校の授業で子どもたちといっしょに「ほんとうの学び」を追求してきた鈴木が、今回は学年経営のコツと全国の研究者とつながってつくってきた授業実践とノウハウを公開します。 ○8月12日 「原発事故から福島を考える授業実践例」 小学校 伊藤 弥（福島） マスコミでも報道された伊藤の授業「原発事故を、授業でどのように子どもたちの学び形成をしたか」の実践報告。この課題は、福島で生き・働く教師にとってこれからも必須です。</p>
<p>② 作文と教育</p>	<p>■子どもの中に寄り添い、生活を見つめ、真実をありのままに書き綴ることを通して、人間らしい感性や生き方を育てる生活綴方の実践はどうあればよいか。 1 基調報告・実践報告Ⅰ 8月10日 14:10～17:30 ●基調報告として：「表現がつながりを紡ぐ」 ～避難先の福島の子の作品、福島の子を書いた作品から～ 白木次男（福島） ○「困難を抱えた子どもたちとともに～小学1年生の実践～」 佐藤秀寿（宮城） 2 実践報告Ⅱ・Ⅲ 8月11日 9:00～12:00 ○「震災を振り返り 思いを共有する」小学4年と6年 畠山 勇（岩手） ○「小学4年生の詩の指導を通して」（仮題） 渋谷俊克（福島） 3 実践報告Ⅳ・総括討論 8月12日 9:00～11:00 ○「綴方を通じ美徳のともなった学びを～学級における平和教育について～」小学6年 井上則秋（青森） ◇総括討論</p>	<p>⑬ 高校生と教育</p> <p>*分科会は8月11日のみ行います。 ■高校教育の現状と未来への展望 ●分科会の内容と実践レポート 各県の教育政策（高校統廃合、学習指導要領改訂に合わせた動き）と教育実践（震災後の高校教育、主権者教育、高校における特別支援教育など）、そしてまた生徒の状況や今後の部活動のあり方などを、レポートと参加者の発言で探る。 ○レポート 「大震災後の福島の現状」（福島から）</p>
<p>③ 外国語と教育</p>	<p>■自立して学習できる子どもに育てる ●実践レポート ○中学3年 読みとり BOY, by Roald Dahl から A Visit to the Doctor と The Great Mouse Plot ○読みとりを支える発音・文法の授業、自ら学ぶ力をつける授業、小中連携の授業 ■講座 8月12日 9:00-11:00 「Frank O'Connor の短編 Guests of the Nation を読む 第2回」- 作品を丁寧に読み、話の構造・からくりをとらえる - チェーホフ型短編の名手 Frank O'Connor. 彼が字面に残したものを読み手である私たちが正確に給々に再現する過程を教えてください。作品の滑稽さ・パロディを味わうことに少しでも近づきたいものです。それは、私たちが授業をするときの形象のとらえ、そしてそこから組み立てる授業案に生きてくるはず。 講師：安藤 勝夫 先生（福島大学名誉教授）</p>	<p>⑭ 障がいのある子と教育</p> <p>■子どもたちに生きる力を一子ども、教師、家庭をつなぐ実践を交流し合おう～ 障害のある子どもを取り巻く地域や学校、家庭の現状は～ ● 障害のある子の支援に関する東北各県の現状を出し合い、様々な課題がある中で「私たちができること」、「すべきこと」について話し合います。 ●実践レポート ○校内通級の実際（小出信也 宮城） ○就労事業所からの報告（加賀重哉 福島・相馬市） ○通級指導教室の現状（渡辺広信 福島・福島市） ○市家庭相談員としての報告（井田玲子 福島・いわき市）</p>
<p>④ 社会科と教育</p>	<p>■分科会のテーマと討議内容&レポート (1) 震災・東電福島原発事故から6年 震災・東電福島原発事故から6年が経過しました。この間、東北各県ではどのような変化があったのか。また変化しなかったことは何なのか。それぞれの地域の実情を確認し、課題と今後の展望について交流します。 ○レポート「高校での実践」 福田和久（福島） (2) 地域の掘り起こしと授業実践 地域の掘り起こしは豊かな歴史像・地域の姿を浮かび上がらせます。その掘り起こしを通じて「地域の素材」を授業に生かす方法と視点、小・中・高それぞれの意見を通して学びあいます。同時に、戦争体験、憲法をめぐる諸問題など喫緊の課題について意見を交流しあいます。 ○レポート「憲法をどのように迎えたか、の掘り起こし」 渡部豊彦（秋田） ○レポート「地域の戦争展の取り組みの中から戦争孤児の体験を持つ夫の話の掘り起こし」 衣山武秀（福島）</p>	<p>⑮ 幼年と教育</p> <p>■保育所保育指針改訂と豊かな保育実践への取り組み～震災後の保育も語り合いながら～ ●基礎講座 8月11日 分科会② 保育所保育指針改訂をどう読みとき、保育現場の実践を進めるか。（福島） ◆各地域の実践と取り組み パート1 あなたの保育園に仲間として気になる子、どうしてる？ ●実践レポートと協議 8月12日 分科会③ ◆各地域の実践と取り組み パート2 豊かな実践の展開にかかせない、毎日の保育の振り返り、どうしてる？ *8月10日は、分科会はいりません。</p>
<p>⑤ 算数・数学と教育</p>	<p>■基礎講座 8月10日 「三角関数定期クルクルの授業」 高校 宮本次郎（岩手） 『おもしろいほどよくわかる高校数学 関数編』や『90分で実感できる微積分の考え方』の著者が提案する、安価で簡単に作ることができる「クルクル」は、三角関数を見て、感じることでできる教具です。製作から三角関数の定義まで、1単位時間で行うことも可能で、生徒の概念形成に威力を発揮し、三角関数を含む方程式・不等式などでも使える活用範囲の広い教具として活躍します。 ●実践レポートと協議 8月11日 ○「平方根の授業」～中学校 千葉（岩手） ○「ネコ仙人と数楽しよう」～中高 伊藤（岩手） * 8月12日は、分科会はいりません。</p>	<p>⑯ 演劇と教育</p> <p>■子どものこころと身体を育む表現活動・文化活動とは ●分科会の内容 子どもや子どもを取りまく文化的な状況を明らかにし、豊かな表現活動・文化活動をどうつくるか。 ●実践レポート（*ビデオ映像あり） ○学習発表会、文化祭など行事をどうつくりあげるか（福島 小・中） ○地域の中の文化活動の取り組み（福島） ○各県から * 参加者からのレポートも大歓迎です。（文化祭や学習発表会での実践など） ■お役立ち演劇講座 ◇台本まつり ◇衣装まつり 学校演劇を中心に、たくさんの台本が集まります。</p>
<p>⑥ 理科と教育</p>	<p>■やさしく本質的な実験・観察を生かした理科教育の創造 ○福島の現状と原発問題 佐原成典（福島） ○三大物質の概念を使ったイオンの学習 佐藤雄一（福島・梁川中） ○考える「化学基礎」 高橋匡之（岩手） * 実験・教材紹介・販売 ブタの肺のシリコン模型、簡易マグデブルグ半球 8月10日 14:00～安達太良小学校 16:30 ～あづま館 8月11日 9:00～12:00 安達太良小学校 8月12日 臨地研修を被災地「現地研修」に代えます。</p>	<p>⑰ 文藝活動と動</p> <p>■文学の様々な表現スタイルを通して「今、ここ」の姿を発信する ●分科会の内容 ◇ 参加者がこの1年書いたり発表したりした作品の合評をし、今後の活動のあり方を検討する。 ◇ 松川事件資料館を訪ね、この問題に関わった作家達の活動から現在におけるその意義を学ぶ。</p>
<p>⑦ 音楽と教育</p>	<p>■子どもがよろこび育つ歌・リズム表現を学ぼう！ ●分科会の概要：「音楽と教育」分科会では「子どもがよろこび育つ歌とは何か？」「保育士や教師がどんな曲を選び、どう動きかけたか」そして「子どもがどう育ち変わっていったか？」を追求し学び実践してきました。今集会では、素晴らしい仕事を積み上げている群馬の「つくしんぼ保育園」のお二人から「子どもが喜び育つリズム運動や歌」を、実際に踊り歌いながら学びます。また、お二人がこれまでの長い間の保育の仕事を通して確信したのも、歌やリズムの合間に教えていただきます。 ●実践講座：「子どものよろこび育つリズムと歌を学ぼう」 8月10日 14:10～17:30 と 8月11日 9:00～12:00 講師：つくしんぼ保育園 進藤美香子さん、小林扶美子さん （会場）安達太良小学校 音楽室・体育館 ●レポート発表 ○「小学校4年・6年の子ども達と」 高橋淑子（岩手） ○保育園の子ども達と」 日食正昭（宮城） ○保育園の子ども達とのリズム・歌 つくしんぼ保育園（群馬）、浮島・あゆみ保育園（宮城）、たつのご保育園（山形）、まきば保育園（青森） ○「特別支援学校の子ども達と」 佐藤 香（福島）（予定）</p>	<p>⑱ 学校と教育</p> <p>■子どもに夢と希望を育む学校づくりを、父母と地域と共に 学校現場、地域、市民運動など、様々な場面で活動している参加者が、多様な視点から「教育」を問い直します。 ●分科会の内容・実践レポートなど ○「原発事故から7年目に入って」（福島 遠藤智恵） ○「大学・大学生との共同実践（花岡事件を通して）」（秋田 富樫康雄） ○「いじめ・自殺（自死）事件と学校・地域の課題」（青森 一戸義規） ○ 映画「『母』小林多喜二の母の物語」上映運動の報告、他（宮城 齋藤敬一） ○ 経済的に恵まれない児童の放課後学習支援活動について（秋田 佐藤寿芝） ○「文化で闘う」（仮題）（秋田 村山廣樹）</p>
<p>⑧ 美術と教育</p>	<p>■子どもの表現力をどう育てるか～子どもの絵や作品を持ち寄ろう・語ろう！～ 指導作品を持ち寄って、子どもの状況、指導について語り合しましょう。 ※ 子どもの絵や作品を持ち参しなくても参加できます。遠慮なくご参加ください。</p>	<p>⑲ 国民教育運動</p> <p>■各地域の子育て・教育・文化協力の取り組みについて ●分科会の内容とレポート (1) 東北各県・地域の子どものめぐる状況について交流します。 ○ 子どもの貧困問題について（福島） ○ 「いじめ・自殺」問題について（宮城） ○ 地方自治と教育について（青森） (2) 子どもの育ちを取り巻く諸問題について、参加者全員で話し合います。 ◆ 「3.11大震災」「福島原発事故」から6年をすぎて ◆ 「小・中・高」の学校現場は・・・ など</p>
<p>⑨ 技術と教育</p>	<p>■小中高を一貫した技術教育としての教材づくり・授業づくり ○プログラミング学習をどうすすめるか？ ○製図学習から始めるものづくり ○栽培学習で取り上げる作物は何かいい？ ※ それぞれの実践をもとに、みんなで討論しましょう！</p>	<p>⑳ 学生生活と教育</p> <p>■地域に根ざし、子どもの発達を保障する生活科・総合学習はどうあればよいか ●分科会の内容と実践レポート 分科会① 10日14:20～17:30 ○「農業ってなあに」 総合6年 小野寺勝徳（宮城） ○「町の奥深さを知り、自分の未来を見つめる総合学習」総合3・4年 佐藤方信（福島） 分科会③ 12日 9:00～11:00 ○「わくわくたんけん隊」生活科 山本公恵（岩手） ■基礎講座・実践講座 分科会② 11日 9:00 あづま館玄関集合・出発 ●たんけん隊の授業 吉田智子（岩手） ●そめものをしよう 吉田智子（ 〃 ）</p>
<p>⑩ 身体と教育</p>	<p>■実技講座：8月11日 9:00～12:00 安達太良小学校 「昔遊びを教材化しよう～まりつき、石けり、なわとびに秘められた可能性～」 講師：日本体育大学 児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科教授 久保 健 先生 以前は、路地でまりつきや石けり、なわとびに興じる子どもたちの姿がよく見られたものです。それが今、遊ぶ場所、時間、仲間が奪われたり、競技化されたりする中で、子どもたちの世界から消えつつあります。それらの遊びの世界を再考してみると、からだを耕し、仲間とつながる宝物がたくさん秘められていることが分かります。さらに、それらの遊びは、大人の社会の中で固くこわばった私たちのからだを心を開きほぐしてくれることが分かります。まずは、自分たちのために、そして、私たちが関わる子どもたちのために、昔遊びの世界を体験し、その教材化の可能性について体感を通して学んでいきましょう。 ●実践報告 ○「ことばで伝え合って、みんなであまくなろう～小学校5・6年の跳び箱運動～」江島隆二（宮城） ○「再登校を夢見て～チームで支える不登校支援～」 鎌田克信（宮城 東北福祉大学）</p>	<p>㉑ こももり校と・教員育</p> <p>■震災から7年目を迎えて子ども・若者を取り巻く状況はどうなっているだろうか。 ●分科会の内容とレポート ○「保健室登校」の事例から 田端深雪（青森） ○「若者のとらえ直しと、今後のあゆみに向けて」 中村信之（岩手） ～「若者らしくない」若者の現状と、今後の方向性～ ○「相変わらずすなほくら」 ～コンサートで思いついて楽譜を用意したけど、なんだか面倒でカラオケにした。声を出すのが一番！ 男鹿湯上南秋教育会館若者ネット（秋田） 井田玲子（福島） ○「小学校高学年姉妹の不登校に寄り添って」</p>
<p>【事務局より】 ① 「日時」と「時間帯」と「会場」が明記されている分科会がありますので、ご注意ください。 ② 分科会に割り当てる部屋の広さを決めるために、前もって各分科会への参加人数が把握できると助かりますので、参加申込書に参加される分科会の番号をご記入ください。</p>		

